

番 号 1

平成24年12月 5日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 5番 狐崎 捷 玲

		平成24年12月 5日 午前 11時 40分 受領
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問
発 言 の 要 旨		備 考
<p>1 放射能測定器について</p> <p>横手市、大仙市では、市独自で放射能測定器を購入し、給食の放射能状況を測定している。給食に放射能測定が必要と考えた当市の一市民がインターネットで消費者庁が無料で昨年、各自治体に放射能測定器を貸し付けていることを知った。10月15日、担当部署へ面談のうえ、消費者庁に、「今年も測定器の貸付をしているかどうか問い合わせたい」とお願いに行ったそうである。担当部署では、その時、「はい、分かりました。」と言ったそうである。11月23日、野田村から仙北市へ瓦礫処理を運ぶための住民説明会があった。その席上、市長に「測定器貸与の問い合わせについて市にお願いに行ったが、1ヶ月以上にもなるのに何の返事もないのでどうなったのですか。」と聞いたところ、市長は初めて聞いたと答えたそうである。私は、ここに大きな問題が潜んでいると思う。そこで質問をしたい。</p> <p>担当部署では市民からの要望に対して「分かりました。」といいながら、どのように処理したのか。どうして市長に報告しなかったのか。</p> <p>もし、部長会議で話し合ったとすればどのような話し合いだったのか。議事録があったら見せてほしい。</p> <p>昨年、消費者庁で無料で自治体に貸し出すと決めたときにどうして手を上げなかったのか。知らなかったのか。それとも知っていても当市に貸与は無理だろうと自己規制したのか。実は、最近分かったことであるが、全国で手を上げた全部の自治体にこの170万円もする測定器が貸与されたそうである。これは、明らかに市の勉強不足と手落ち、今後、横手、大仙市のように市独自に購入する予定はないか。今後、国、県、民間を問わずこの件に限らずもっと助成のアンテナを広めるべきでないか。</p>		

2 12月4日の秋田内陸南部地震について

12月4日の早朝に短時間であったが仙北市に震度4の地震がありびっくりした人も多いと思う。

この地震については予測されていたことでもあり、私も昨年9月議会の「議会だより」の控室欄に次のような内容で書いている。次にもし起こるとすれば1423年に起こったと思われる西明寺、西長野、強首断層と陸羽地震で被害の少なかった地域である抱き返りから中生保内にかけてだろう。でもこれはあくまで過去の歴史からの推察であり、明日来るとも100年後に来るかも分からないが、次の質問の内容の取り組みをすべきと思う。

特にこの地域の家具の固定の広報活動をしているか。

気象庁に呼び掛けこの断層の近くに地震計を設置する働きをすべきでないか。

3 宿泊特区について

4 廃校利用について

5 種苗交換会の農機具会場について

6 その他

(1) トンプソンレポートの発行について。

(2) 小玉暁村と姉こもさ・・・姉こもさ全国大会を。

(3) 仙北市民歌をもっと広めるべき。

上記のとおり通告します。

仙北市議会議長 佐藤 峯夫 様

仙北市議会議員 17番 田口 喜義

		平成24年12月 5日 午前 11時 42分 受領	
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問	
発 言 の 要 旨			備 考
<p>1 仙北市財政について</p> <p>仙北市の普通会計決算額でみると、公債費の占める割合は合併時よりも伸びている。</p> <p>自主財源である市税は、合併時よりも大きく落ち込んでいる。</p> <p>歳入の主なものである地方交付税は、平成23年度では歳入の51.1%と決算額の半数を超えている。</p> <p>これは、仙北市の借金を返済するために、市税の総額を充てても、まだ足りず、国からの交付税に頼らなければ、予算編成ができないのが現状である。</p> <p>そこで、以下について市長の所見を伺う。</p> <p>(1) 今後の恒常的な財源確保のための具体策は。</p> <p>(2) 今後、市としての借金の返済や長期リースの支払に影響はないか。</p> <p>(3) 今後の総合計画の考え方として、総花的よりも事業を絞り込む必要はないか。</p> <p>(4) 除雪経費等は毎年、補正計上されているが、当初予算の段階では、年間予算を組めないのか。それは予算編成の考え方として適正か。</p>			
<p>2 市職員について</p> <p>市長の理念・方針に基づく様々な事業を实践するうえで、市職員は必要不可欠であり、市職員の意識が大きく影響する。</p> <p>「人づくり」は最も難しい課題の一つであるが、市民に信頼される職員であるためには、避けて通れない。</p> <p>しかしながら、より多様化する市民ニーズに応えるための業務量は増加し続け、職員数は減少している中で、以下について市長の所見を伺う。</p> <p>(1) 類似団体から見る適正な職員給構成比と職員数は。</p>			

- (2) 年齢別の職員構成は適正か。
- (3) 減少している職員数と業務量のバランスは適正か。
- (4) モチベーションを維持する「人づくり」のための具体策は。
- (5) 人事配置について適材適所配置か。

3 田沢湖マラソンについて

第 27 回田沢湖マラソンは全国から 5,178 名のエントリー数があり、4,850 名のランナーが参加した大会でありました。

そこで、以下について伺う。

- (1) 参加申し込みの制限（足切り）について
 - 制限をしなければ行けない理由（課題）は何か。
 - その課題に向けた今後の対策について。
- (2) 田沢湖マラソンをよりメジャーな大会（参加者 1 万人規模）にするための準備について。
 - その方策は何か。又、クリアしなければならない課題は何か。
- (3) 田沢湖マラソンは、現在、教育委員会の所管で行っているが、観光的要素が大きいと感じる。所管である教育委員会（教育長）の考え方は。

上記のとおり通告します。

平成24年12月 3日

仙北市議会議長 佐藤 峯夫 様

仙北市議会議員 9番 黒沢 龍己

		平成24年12月 3日 午後 2時 30分 受領	
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問	
発 言 の 要 旨			備 考
<p>1. 大規模肥育牛団地事業について</p> <p>前回、9月定例会の市政報告の中で和牛団地事業誘致について、大平畜産との協議も大詰めとの報告がありましたが、その後、住民説明もないまま来年度からスタートをする報道をされ、近隣住民は非常に困り、許すことの出来ない声が多数である。そこで伺う。</p> <p>なぜ上萩の台の場所を選択したのか、その理由は。</p> <p>住民に対しての説明が遅れたと思うが、遅れた理由は。</p> <p>住民の理解、納得が得られなくとも地権者合意で事業を実施する考えか。</p> <p>近い場所で葉たばこを栽培している農家がいることを知っていたのか。</p> <p>飼料、牛等の搬入ルートはどの路線計画なのか。</p> <p>住民の不安、不満をどう解決しようと考えているのか。</p> <p>また今後の説明計画は。</p> <p>2. 中川地区上水道計画について</p> <p>中川地区は現在、北沢・大場・黒森地区は簡水で、松ヶ崎・川原・寺沢の一部まで角館上水が来ている。それ以外の地区は地下水に頼っているが、昨年、今年の猛暑で各集落の井戸水が涸れた民家が相次いだ。住民からは今後、水不足を心配する声が多く聞こえ、上水確保が必要であるとの意見が多いことから、市としての計画、考え方を伺う。</p> <p>角館上水は、どこの地域まで可能なのか。</p> <p>アンケート調査計画は考えているのか。</p> <p>山谷川周辺の水質、水源調査計画は考えているのか。</p>			
上記のとおり通告します。			

番 号 4

平成24年12月 5日

仙北市議会議長 佐藤 峯夫 様

仙北市議会議員 4番 平岡 裕子

		平成24年12月 5日 午前 6時 51分 受領
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問
発 言 の 要 旨		備 考
<p>1. 保育園での生活が親・子供にとって充実したものになるために 臨時保育士の処遇について (1)保育士の専門性をどのように考えているのか (2)賃金の見直しについて再度検討されているのか</p> <p>2. 就学援助の充実について (1)本市における就学援助制度を活用した取り組みについて 保護世帯と準要保護世帯の近年の推移は 準要保護世帯について対象額、申請手続き、補助方法、周知 の仕方はどのようになっているのか (2)本市の小中学校において、学校に納入する家庭の負担はどれだ けか 入学時では 学年ごとでは</p> <p>3. ガレキ受け入れに伴う住民の不安を払拭するために 気になる学校給食(食材)の放射性物質濃度など、細やかな測定 と公表についての対策について</p>		
上記のとおり通告します。		

番 号 5

平成24年12月 4日

仙北市議会議長 佐藤 峯夫 様

仙北市議会議員 20番 稲田 修

		平成24年12月 4日 午前 11時 25分 受領	
発言通告書	発言の種別	一般質問	
発言の要旨		備考	
1. 行政改革と門脇市政について 2. 決算委員会で指摘された事項で25年度対応はどうか イ. 地域運営体の活動について ロ. 墓地管理のあり方について 3. 白樺学級の方角性を問う 4. 空き家対策と空き地対策について			
上記のとおり通告します。			

平成 2 4 年 1 2 月 5 日

仙北市議会議長 佐 藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 6 番 田 口 寿 宜

		平成 2 4 年 1 2 月 5 日 午前 1 0 時 5 2 分 受領	
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問	
発 言 の 要 旨			備 考
<p>田沢湖の環境再生、今後の方向性について</p> <p>現在、地道ながらも田沢湖再生に向けた動きが続いている。昔の田沢湖に戻すには何百年という時間が必要であるというのは承知の上であるが、私達はその内の何十年でも再生に向けた取り組みを進め、次世代にバトンを渡して行かなければならないと考える。国・県そして市民と手を携えながら、クニマスという神から授かった資源を活かし、田沢湖再生に向けた取り組みを活発にすべきと考えるが、この事について今後の方向性について伺う。</p> <p>次世代を担う子ども達の視点を活かしたまちづくり</p> <p>1) 防災</p> <p>10 月 18 日に開催された火山砂防フォーラムにおいて、生保内小学校 5 年生が行った研究発表は大変レベルが高く、参加者に大きな感動を与えた。駒ヶ岳が危険な状況になりつつある今、こうした研究成果を活用し、市民と共に防災に対する取り組みを進めるべきと考えるがどうか。</p> <p>2) 子ども議会</p> <p>平成 19 年 12 月議会において、子ども議会の開催について一般質問を行った事がある。今年は県議会で開催され活発な議論がされたと聞く。子どもの視点は色々な可能性を秘めている。本市では子どもサミットが開催されており大変良い事だと思うが、このサミットのまとめとして子ども議会を開催し、閉塞感漂う本市の状況を打破すべくヒントを得て、次世代へしっかりとバトンを受</p>			

け渡せる環境を整えるべきではないか。

総合体育館について

平成 22 年 9 月定例会において、総合体育館の必要性について一般質問がされている。その後、仙北市体育施設マスタープランに係る提言書及びマスタープラン（案）が示され、その中で総合体育館に関して触れられていた。今後マスタープランの成案が示される事になっている。本市は文化・スポーツによる交流には最適な場所であり、その強みを活かし、文化・スポーツ交流ゾーンの中核となる中途半端ではない総合体育館は必要な施設と考える。様々な面で波及効果をもたらす総合体育館の建設に向け、今後十分検討されるべきと思うが、市当局としてどのようなお考えをお持ちなのか伺う。

上記のとおり通告します。

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 1 番 高 橋 豪

平成24年12月 4日
午前 8時 30分 受領

発言通告書	発言の種別	一 般 質 問	
質 問 の 要 旨			備 考
<p>待ったなし 行財政改革を問う</p> <p>市長はマニフェストにおいて行財政改革を断行するとし、各種項目を掲げている。また、平成23年8月には効率的な行政運営と自立した自治体の確立を目指して、第2次行革大綱を策定し、今後5年間の取り組みについて計画されている。しかしながら、その間にも社会情勢はめまぐるしく変化し、自治体が抱える新たな課題や市民の多様なニーズに対して、限られた財源の中で、的確にしかも迅速に対応することが求められ、計画値以上に改革への取り組みを加速させていく必要があると考える。自主財源が乏しい本市においては、最小の経費で最大の効果を発揮できる行政運営が必須であり、財政的側面及び人的側面においてより健全で効率的なマネジメントが実行される必要性に鑑みて次の点について質問する。</p> <p>1、新公会計制度と外部監査の必要性について</p> <p>官公庁の会計制度は会計年度（4月～翌年3月）までの収入と支出及びその差引を表し、予算の執行状況や現金収支を把握するものであり、本市も同様の制度で決算を行っている。しかし一方では、これまでに資産がどの程度形成されていて、その財源の内訳がどのようになっているのかについての情報が不十分であり、また、現金主義に基づく公会計制度においては、現金支出以外に発生している行政コスト（減価償却費など）を把握することが出来ない。行財政改革を進める上では、この資産と負債のバランス及び、減価償却や市債に対する金利等も含めた実際の行政コストを完全に把握することがまずは第一に必要であり、こうした財務諸表の活用は、あらゆる施策の内容についての検証</p>			

やその後の予算編成において大きな効力を発揮し、また、財政の健全化と透明性を担保するものであると認識する。本市の第2次行革大綱においては、財務4表（貸借対照表・行政コスト計算書・キャッシュフロー計算書・純資産変動計算書）の作成について、平成23年度から実施される予定となっているが、現状を伺うと同時に今後についての考えを問う。

また、これと併せ、監査法人及び公認会計士等による外部監査については、効率化や経費の最小化、組織運営の適正化などの視点から、行政運営に対し専門的な見地からの検証・評価を行い、建設的提言を行うといった役割が期待され、現在の内部監査と連携することにより、これまで以上に客観性や専門性を生かした効率的・効果的な監査が期待される。こうしたことから、財務諸表の作成と同時に公認会計士等による外部監査の導入についても検討する必要があるが、市長の考えを伺う。

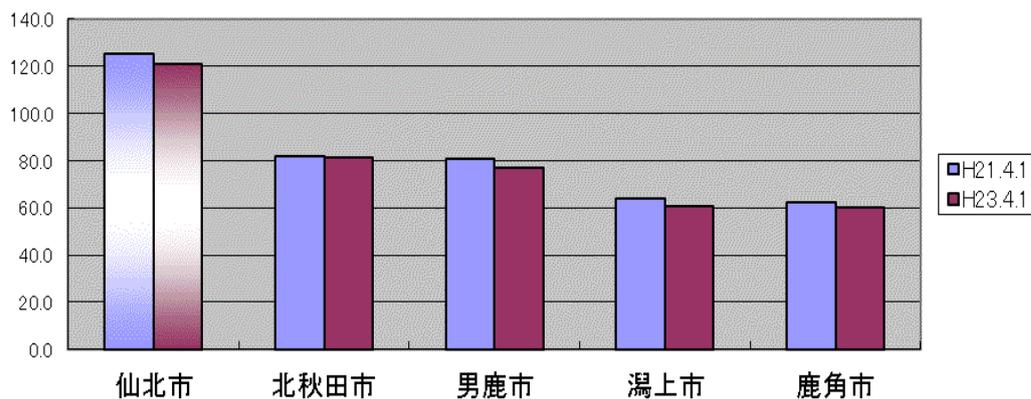
2、適正な定員管理について

第2次行革大綱においては、平成23年度からの5年間で、職員数を約11%削減する計画となっているが、およそ定年退職見合いの数値目標であるように見受けられる。人口1万人当たりの職員数を他の自治体や類似団体と比較した場合、仙北市は突出して高い状況にある。（グラフ参照）今後も計画通り進めるのか、それとも早期退職優遇措置策を含め様々な施策を講じて退職勧奨を進めて適正化を急ぐのか基本的な考え方を伺う。

人口1万人当たりの一般行政部門の職員数(教育部門は含まれていません)。

「〇〇市職員の給与・定員管理等について」の「職員数の状況」から抜粋。変化率は算出したもの。

	H21.4.1	H23.4.1	変化率	備 考
仙北市	125.0	120.8	96.7	
北秋田市	81.8	81.2	99.2	
男鹿市	80.9	77.1	95.3	
潟上市	63.7	60.9	95.6	
鹿角市	62.3	60.4	96.9	
類似団体	73.3	72.4	98.8	
大仙市	89.4	89.2	99.7	



3、公平・公正な人事と昇級・昇格等について

前述のとおり、住民の行政に対するニーズが多様化し、そうした社会の変化がめまぐるしい中で、これらに的確かつ迅速に対応し、効率的な行政サービスを提供していくためには、その担い手である職員の在り方、意識、育成方法などを当然に改革していく必要があると考える。これまで、本市も含め多くの自治体では、採用試験の種類や学歴等を重視したり、在職年数に応じた年功的な給与や昇格など画一的な人事管理が行われてきたが、今後は、職員個々の能力や実績等を的確に把握し、適正な昇格や、適材適所の人事配置、めりはりの利いた給与処遇などを実現し、職員の業務遂行意欲を向上させ、行政サービスの能率増進を図っていくべきである。本市の第2次行革大綱ではこうした改革の一つとして人事評価制度の導入を目指しているようであるが、現状の仕組みと今後の対策について次の点を問う。

現在の職員の昇格基準についてはどのようになっているのか。以前の一般質問でも述べたが、昇格者数については平成22年度から急激に増加している。(表・グラフ参照)なぜこのようなことが起こるのか。

平成21年～平成23年において、一般行政職の職員の内、7級(部長級)から4級(課長補佐級)までが締める割合を県内他自治体の数値と比較してみても、他の自治体のほとんどは減少しているにも関わらず、本市だけが32.6%から44.6%と著しく増加している。(表・グラフ参照)これをどう捉えるのかと併せて伺う。

職員の業務遂行意欲を向上させ、行政サービスを効率化させる上では、こうした昇給・昇格に対し透明性と競争性をより鮮明にする必要がある。年功的な制度について今後改めて行くつもりはあるのか。また、能力評価と業績評価に基づく人事評価制度の導入については今後どのように行われるのか？

また、そうした中で昇格についてであるが、特に管理職や専門職の任用については、その職を担うだけの職能や適性があるかを重視し判断していく必要がある。人事評価制度は現行の職務において十分な能力と業績があるかを見るものであり、仮に人事評価の結果が良くても、次に任用される職を担うだけの力量の有無については分かりかねる場合もある。そこで、こうした管理職へのランクアップについては昇進試験を採用している自治体も多い。こうした取り組みについての考え方と今後の導入について伺う。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
7級	部長	9	9	9	7	8	14	11
6級	次長	5	6	7	6	12	19	13
5級	課長	51	46	41	42	43	37	55
4級	課長補佐	57	58	57	53	70	76	65
3級	係長、主査	134	128	130	120	104	92	84
2級	主任	43	57	56	67	68	72	68
1級	主事	70	57	54	36	17	18	18
	合計	369	361	354	331	322	328	314

「仙北市の給与・定員管理等について」一般行政職の級別職員数等の状況 からデータを取得。それぞれ4月1日現在。

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
新規採用者	1	2	2	4	5	5	5
昇格者数	25	30	31	51	112	100	71
退職者数	11	13	25	25	20	24	
職員数	369	361	354	331	322	328	314

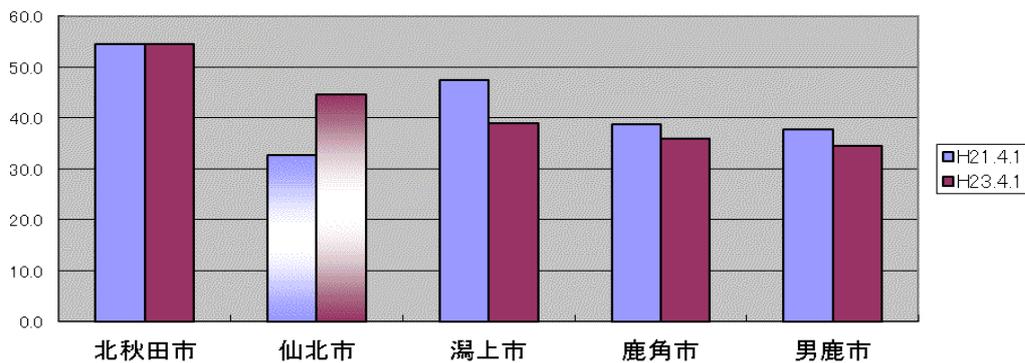
対象は、一般行政職。

職員に占める7級(部長)から4級(課長補佐)までの割合(%)

「〇〇市職員の給与・定員管理等について」の「一般行政職の級別職員数等の状況」の値を集計。

H24.4.1のデータでは46.0%。ちなみに部長から5級(課長)までは25.4%、3級(係長・主査)までは72.7%

	H21.4.1	H23.4.1	変化率	備考
北秋田市	54.5	54.6	100.2	
仙北市	32.6	44.6	136.8	
鴻上市	47.4	38.9	82.1	
鹿角市	38.7	35.9	92.8	
男鹿市	37.8	34.5	91.3	



4、職員の個々の稼働力について

非常に厳しい財政運営が強いられている中、限られた財源と人材で、今後どのようにして多様で高度な住民のニーズに応えて行くかが課題である中、これまで以上に職員の個々の働きが重要となる。これまで職員 1 人 1.0 の稼働力を、今後 2 倍にも 3 倍にもレベルアップすることにより、少ない財源と人員をカバーしていくための考え方について伺う。

また、第 2 次行革大綱には研修制度や人事交流の推進などが掲げられているが、これに加え各課の業務内容と職員個々の業務量も管理し見極めをする必要もあると考える。こうした取り組みについてはどのようになされているのかについても併せて伺う。

さらに、職員管理における時間外労働について触れるが、「平成 23 年度仙北市の給与・定員管理等について」のデータによれば一般行政職において平成 22 年度の支給実績は 8,459 万円であり、職員一人当たりになると 17.8 万円となっている。直近のデータはどのようになっているのか。合計金額、職員一人当たり金額、最大支給額、組織部門ごとの支給額等について伺う。

また、先に述べた職員個々の業務量の偏りにより、各セクションによって時間外労働に大きな差が生じていると推測される。一方でこうした業務量の多少を起因とする残業の他には、1 人当たり 1.0 の稼働以下の場合、すなわち業務遂行速度が遅いことに起因する場合もあるのではないだろうか。そこで、こうした残業管理については、具体的にどのようにして行われているのかについてその具体的な内容を伺う。

5、窓口業務の拡大について

第 2 次行革大綱の中にある窓口業務の拡大について注目している。計画の具体的な内容には、「各種証明書の宅配サービスの検討」と「自動交付機の設置の検討」の 2 項目が含まれている。

以前、市民サポートセンターとして各地に新しい出先機関を設置するという案に反対した際対案として述べたのは、住民票や印鑑証明などの各種証明書については、高齢化が進みお年寄りが多い中、そうした方々が市役所やその出先機関まで足を運ばなくても、逆に市役所からの配達サービスを行うことはできないかということと、コンビニエンスストアをはじめ、郵便局などのその他機関と連携し自動交付機を設置することで、土日祝日や時間外でも証明書が取得でき、働く市民に対しては非常に有効的なサービスではないかということであった。このような仕組みを実際に導入することにより、市民に対するサービス向上のみにとどまらず、事務の効率化にも寄与することになると考える。

大手コンビニでは、セブンイレブンジャパンが 2010 年から政令指定都市などを始め先行実施し既に 50 程度の自治体が参画している。さらに、ローソン、ファミリーマート、サークル K サンクスは来年の春をメドに参入を検討している模様であり、本市においても大いに考えるべきところまで来ている。また、各種市税の納付については、最近ではペイジーを導入し口座振替を促進しているが、これと同時にコンビニ納付の仕組みも検討するべきであると考え。費用対効果については十分に考慮する必要はあるものの、市民の多くにとって大変有益な事業となる。これら、新たな住民サービス導入についての考え方について見解を伺う。

以上一問一答形式で質問しますので申し添えます。

上記のとおり通告します。

番 号 8

平成24年12月 4日

仙北市議会議長 佐藤 峯夫 様

仙北市議会議員 7番 阿部 則比古

		平成24年12月 4日 午後 3時 15分 受領	
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問	
発 言 の 要 旨			備 考
<p>現在仙北市の直営幼稚園、保育園における正職員は何名か？ 正職員と同様の勤務内容の臨時職員は何名いるのか？（単純労務のパートは除く） 給料（年間総支給額）は正職員と臨時職員ではおよそどの程度の開きがあるのか？30代40代では？ 今後直営の幼稚園保育園をどのようにしていくのか？タイムスケジュールは？</p> <p>今後の仙北市の財政が非常に心配だ。市長はどのような展望をもっているのか。</p> <p>仙北市政策検証結果報告書が発表された。押しなべて大変手厳しい評価だがどのように受け止めているのか？これまでの政治手法にレッドカードが示された様な状況に見受けられるが、このような政治手法で押し通すつもりなのか？</p>			
上記のとおり通告します。			